

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴ炭疽病、ハダニ類の防除対策の徹底について

本年 8 月の降水量は平年よりかなり多く（平年比 484%、佐賀市）、炭疽病の伝染に好適な条件が続
き、現在、葉の汚斑型病斑（写真 1）や、立枯れ（写真 2）が多くの圃場でみられています。また、福岡
管区気象台が 9 月 9 日に発表した九州北部地方の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気候は、気温が
平年より高く、炭疽病およびハダニ類の発生に好適な条件となっています。

本圃での被害の発生を防ぐには、本圃への持ち込み防止が重要になりますので、下記事項を参考に、
防除対策を徹底するよう生産者への指導をよろしく申し上げます。

記

【炭疽病】

1. 発生状況

9 月 2 日～7 日に実施した育苗圃（苗）での調査において、葉の汚斑
型病斑（写真 1）の発生株率は、0.98%（平年 1.20%、前年 0.12%）
と平年並であった。ただし、前回（8 月中旬）の調査時に比べ株率およ
び圃場率ともに増加しており（図 1、表 1）、一部、多発生した圃場もみ
られた。



写真 1 葉の汚斑型病斑

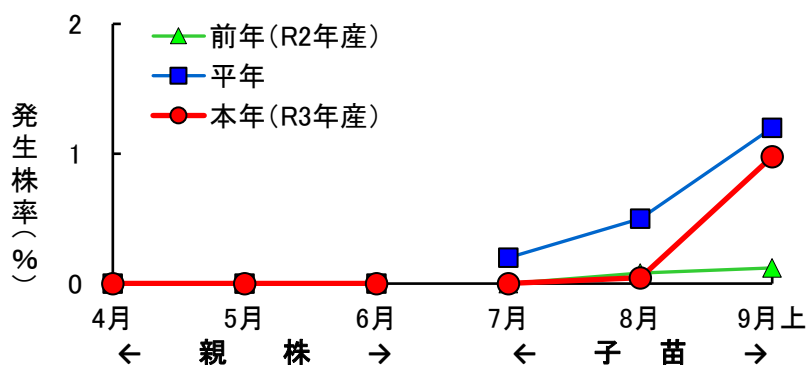


図 1 イチゴでの炭疽病汚斑型病斑の発生推移



写真 2 苗の立枯れ

表 1 イチゴ定期調査圃場における炭疽病汚斑型病斑の発生状況

調査地点		A	B	C	D	E	F	G	H	I	発生圃場率 (%)
発生株率 (%)	8月中旬	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.2	22
	9月上旬	0	0.2	1.2	0.2	5.4	0	0	1.4	0.4	67

注) 令和3年8月17日～20日及び9月2日～7日に県内各地のイチゴ圃場を調査

2. 防除対策

1) 耕種的防除

a. 育苗床

- (1) 本病による葉の汚斑型病斑、葉柄の黒色の陥没した病斑がみられる株や立枯れ株は、他の株への伝染源となるので早急に除去し、圃場外に持ち出し処分する。また、発病株に隣接した株など感染が疑わしい株についても、同様に除去する。
- (2) 過度の灌水は発病を助長するため、灌水は天候、時間およびポットの乾き具合を考慮して高湿度条件を長時間維持しないよう実施する。

b. 本圃定植時

- (1) 定植前の苗選別を徹底し、罹病の可能性のある苗（葉、葉柄に病斑がみられる株、発病株の周辺株）は定植しない。

2) 薬剤防除

- (1) 既に発病がみられる圃場や雨よけ被覆を行っていない圃場では、散布間隔を短縮する等対策を徹底する。また、本圃定植直前には、必ず薬剤防除を実施し、天井ビニル被覆時まで本病に対する薬剤防除を継続する。
- (2) 薬剤防除は、病原菌感染後の散布では防除効果が劣るため、週間天気予報に注意し降雨前に行う。特に、台風襲来時や接近時は、風雨による伝染を抑えるため、苗の転倒、落下防止のためのネット被覆前に、発病株を除去、処分するとともに、風雨前の薬剤防除を実施する。また、風雨が収まった後は、できるだけ早期にネットを除去し通風を図る。
- (3) 薬剤は、地際のクラウン周辺部に届くよう十分量を散布する。
- (4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同系統の薬剤を連用しない。

【ハダニ類】

1. 発生状況

9月2日～7日に実施した育苗圃(苗)での調査において、ハダニ類の発生株率は6.2%(平年5.6%、前年9.2%)であり、平年並であったが、前回(8月中旬)の調査時に比べ増加している(図2)。

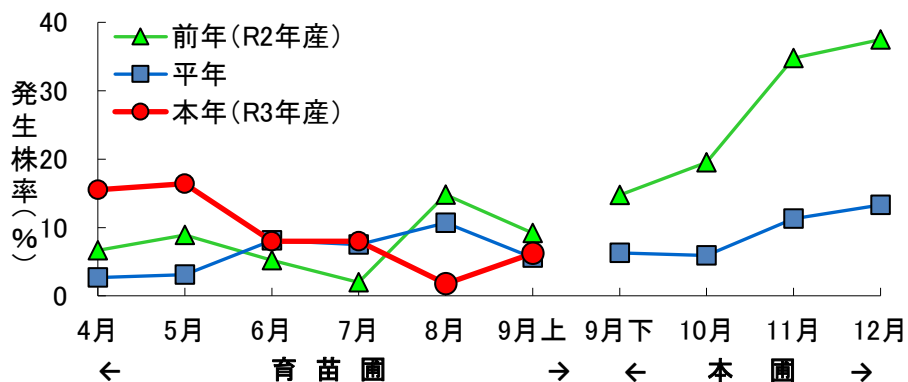


図2 イチゴでのハダニ類の発生推移



写真3 ハダニ類

2. 防除対策

本圃定植時に持ち込みが多いと本圃で抑えきれず多発生してしまうため、育苗期の防除対策の徹底が重要である。

また、イチゴのハダニ類については、薬剤感受性の低下により、薬剤の防除効果が十分に得られない場合があり、圃場によって効果のばらつきも大きい。そのため、薬剤防除の際は効果を確認するとともに、天敵等を活用した総合的な対策を行う。

1) 育苗期・定植後共通の防除対策

- (1) ハダニ類は小さく（体長：0.5mm程度）、肉眼では発生に気付きにくい。葉裏をルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努める。特に、ハダニ類の吸汁により葉に白いカスリ状の斑点が生じている場合（写真4）、既に発生が増加していることもあるため、早急に葉裏の観察を行う。
- (2) 薬液が葉裏にかかるよう、十分量を丁寧に散布する。



写真4 ハダニの吸汁により白いカスリ状の斑点が生じた葉

2) 育苗期の防除対策

- (1) 薬液がかかりやすいよう、苗は十分な間隔を置いて並べる。
- (2) ハダニ類の寄生のない苗を定植するため、定植前にモベントフロアブルの灌注処理を実施する。

3) 定植後の防除対策

- (1) 薬剤のかけムラをなくし防除効果をより高めるため、散布前に古葉を除去する。
- (2) 本圃の防除は天敵であるカブリダニ剤と殺ダニ剤の組み合わせによる体系防除を行う。なお、天敵導入前には、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネフロアブル、スターマイトフロアブル等）を用いて、ハダニ類の寄生を0頭に抑える（ゼロ放飼）。
- (3) 天敵放飼後も発生状況をよく観察し、ハダニ類の密度が0.5頭以上/複葉の場合は、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネフロアブル、スターマイトフロアブル等）を散布して、密度抑制を図る。

	月・旬	薬剤防除	天敵防除
育苗期	7~8月	・気門封鎖剤(粘着くん液剤等)を5~7日間隔で定期散布	
	9月	・天敵に影響が少ない薬剤 ・モベントフロアブルの灌注 ¹⁾	
定植	下		
本圃	10月	・(臨機)アファーム乳剤	
	上		
	中	・天敵に影響が少ない薬剤	
	下		
	11月		
	上		
	中		
	下		
	12月		
	上		
	中		
	下		

図3 天敵を用いたイチゴのハダニ類の防除対策(例)

1) モベントフロアブルは、マルハナバチおよびカブリダニ類への影響があるため注意する。(マルハナバチ: 45日、チカブリダニ: 45日)

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

